



東京教区時報

# きょうくニュース

第571号

2024年5月5日  
日本聖公会東京教区  
港区芝公園3-6-18  
編集広報委員会

WEB:<http://nssk.org/tokyo> E-MAIL:[comm.tko@nssk.org](mailto:comm.tko@nssk.org) Phone:03-3433-0987 Fax:03-3433-8678

## 公 示

救主降生 2024年4月26日  
日本聖公会東京教区主教  
主教フランシスコ・ザビエル 高橋宏幸

神のお許しがあれば、聖職按手式を下記のように執り行い  
聖職候補生 パウロ 福永 澄  
を公会の執事に叙任いたします。  
主にある諸教会のみなさまのご加禱をお願いいたします。

## 記

日 時 救主降生 2024年6月29日  
(土曜日・使徒聖ペテロ・使徒聖パウロ日) 午後1時  
式 場 日本聖公会東京教区 神田キリスト教会  
〒101-0021 東京都千代田区外神田3-5-11 TEL03-3251-4981  
司 式 主教 フランシスコ・ザビエル 高橋 宏幸  
説 教 司祭 ダビデ 斎藤 徹  
式典長 司祭 フランシス 下条 裕章  
※祭色は赤を用います。  
なお、北関東教区との合同聖職按手式(司祭志願者:執事 ミカ  
エル・ヨシユア大洋洋平)となります。

以上

## ◇5月の代禱・信施奉献先

▽教区子どもたちへの活動のため▽教区中高生世  
代活動のため▽カルト問題キリスト教連絡会の働  
きのため▽アジア・エキュメニカル週間(12日  
～18日)

## ◇東京教区リトリートのご案内

参加費無料、事前予約不要

### 【イメージを用いて祈る】

日時: 5月16日(木) 7時～7時50分  
場所: 神田キリスト教会  
ファシリテーター: 司祭 上田 亜樹子

### 【み言葉に聴く】

日時: 5月18日(土) 10時～12時  
場所: ナザレの家(旧ナザレ修道院)  
ファシリテーター: 司祭 成 成鍾

## 2023年日本聖公会宣教協議会からの呼びかけ ここからまた歩きはじめよう

～いのちに仕え、となりびととなるために～

1. 神の み声に耳を傾けよう
2. 人々の声に耳を傾けよう
3. 世界 の声に耳を傾けよう

### 【テゼの歌・アイコン・沈黙】

日時: 5月25日(土) 16時半～17時半  
場所: 目白聖公会

ファシリテーター: 植松 功

主催: 信仰と生活委員会 共育プロジェクト

### ▽中高生会 山登り

日時: 5月6日(月・休) 10時半～16時解散  
集合場所: 京王線高尾山駅

主催: 東京教区中高生会

こんにちは! 中高生会です。

5月6日は山登りをしませんか? 各自でお弁当  
を持ってきて山頂で食べる予定です。

### 今週・来週の予定

5月5日～18日

- 5(日) 復活節第6主日
- 8(水) 礼拝音楽委員会  
共育プロジェクト
- 9(木) 昇天日  
資料保全委員会
- 10(金) 教役者待遇調査委員会
- 11(土) 下町教会グループ協議会(月島)  
財政委員会(Web)
- 12(日) 復活節第7主日(昇天後主日)
- 15(水) 教役者レクイエム
- 16(木) 東京教区成立100周年記念誌制作特別  
委員会

キャンプに参加したことがある子はもちろん、中高生会に来たことがない子でも大歓迎！中高生世代であれば、誰でも参加可能です。待っています♪

参加希望者はQRコードから、Google フォームを提出してください。

お問合せは [tokyo.camp2013@gmail.com](mailto:tokyo.camp2013@gmail.com) までお願いします。



#### ▽いのちをみつめる祈りの集い

「戦争の時代」と日本国憲法

日時：5月13日(月) 19時～21時

講演：岡本 厚さん(ジャーナリスト、岩波書店元代表取締役社長、元『世界』編集長)

主催：日本聖公会正義と平和委員会 憲法プロジェクト

参加方法：事前申し込みは不要。以下のURLよりZoomに直接お入りください。  
<https://onl.sc/1LPhKyg>



#### ▽神田キリスト教会 ランチタイムパイプオルガンコンサート

日時：5月15日(水) 12時20分～50分

場所：神田キリスト教会

演奏：八代紀子

入場無料

#### ▽神田キリスト教会 ロレンツォ・ギエルミパイプオルガン リサイタル

日時：5月23日(木)開演19時(開場18時30分)

場所：神田キリスト教会

入場料：3,000円(限定120席)

#### ▽下町聖書の会(5月)

①日時：10日(金) 10時半

場所：神田キリスト教会

②日時：24日(金) 10時半

場所：神田キリスト教会

③日時：31日(金) 19時

場所：オンライン開催 参加されたい方は上田 亜樹子司祭 ([ueda-a.tko@nssk.org](mailto:ueda-a.tko@nssk.org)) にご連絡ください。

・学ぶ箇所は、今回から神田はマルコ福音書(下記参照)、オンライン開催の聖研は今まで通り主日の聖書箇所です。(今回は都合により第5金曜日開催となります。)下町グループ以外の方の参加も歓迎します。

・下町聖書の会(神田キリスト教会)お知らせ

これまで、開催日直後の主日の福音書をテキストに学んできましたが、改正版の聖書日課の試用のこともありますので、この際、マルコによる福音書を第1章から少しずつ、ご一緒に読み進めてゆくこととなりました。

次回、5月10日より以下のようなプログラム構成になります。

・下町聖書の会(神田キリスト教会)

日程：毎月第2・第4の金曜日 10時半より

会場：神田キリスト教会ホール

内容：開会の祈り

聖書輪読(マルコによる福音書より)

解説と分かち合い

### 北海道教区 連続講座 アイヌとキリスト教

日本聖公会北海道教区は今年、宣教開始150年を迎えております。その一貫として「連続講座 アイヌとキリスト教」(北海道教区ならびに北海道大学 アイヌ・先住民研究センター主催、5回連続、オンライン有)を開催いたします。

初回は5月18日(土)午後5時から。広谷和文司祭による「日本聖公会北海道教区のアイヌ宣教人物史」です。

一回のみの参加も可能です。ぜひご参加ください。

申込みや詳細については北海道教区HP 宣教150年特設ページを御覧ください。



昼の祈り  
お茶・散会

#### ◆教役者レクイエム

\*聖アンデレ教会 HP よりライブ配信します。

<http://www.st-andrew-tokyo.com/web/>

日時：5月15日（水）10時30分

場所：聖アンデレ主教座聖堂

説教者：主教 高橋 宏幸

▽宣教師 メアリー・チャンドラー▽執事 土田 三

秀▽伝道師 田中 則貞▽司祭 井原 泰男▽司祭 一

杉 経法▽司祭 竹内 弘▽伝道師 申上 清枝▽司祭

佐藤 信康▽司祭 松原 剛▽司祭 西村 哲郎▽司祭

ケネス・ハイム▽司祭 末吉 万吉▽司祭 西 俊司

▽司祭 矢澤 信夫▽司祭 河野 裕道▽司祭 伊東 松

太郎▽伝道師 井原 多美子

#### 【「Thy Kingdom come（み国が来ますように）」 キャンペーン】

5月9日（木）昇天日から5月19日（日）聖  
霊降臨日までの11日間にかけて行われる世界的  
な祈りの運動です。各教会・礼拝堂にお届けした  
「11日間の祈りのしおり」を活用して、クリスチャ  
ンに導きたい家族、友人、知人5名を覚えてお祈  
りください。

しおりは管区事務所のHPにPDF版が掲載さ  
れています。

#### 「み国が来ますように」の祈り

##### The Prayer for Thy Kingdom Come

全能の神よ、あなたは天に昇ったあなたのみ子によって、み国の福音を宣べ伝えるようにと、  
私たちをこの世に送り出されました。どうかあなたの霊によって私たちにひらめきを与え、  
私たちの心にあなたの愛を灯してください。そして、あなたの言葉を聞くすべての人が、あ  
なたのもとに集えますように、主イエス・キリストによってお願いいたします。

アーメン

#### THY KINGDOM COME「み国が来ますように」2024

2024年5月9日（昇天日）～5月19日（聖霊降臨日）

今年も「み国が来ますように」の時がやって参りました。これは世界中の聖公会で共有し  
ているお祈りの運動です。このお祈りの運動によってイエスさまとの交わりを深めて、教会  
ではもちろん、また、それぞれが置かれた社会の場所でもイエスさまの愛と平和が分かち合  
えますようにと願います。各教会で配布されている「祈りのしおり」の朗読音声  
の動画を北関東教区・東京教区宣教協働特別委員会、信仰と生活委員会の協力のも  
と作成して5月9日（木）より毎朝7時にYouTubeにて配信いたします。右  
記のQRコードよりお入りください。



**サラーム・パレスチナが受け取ったパレスチナの生の声をお届けします**  
**サラーム・パレスチナと交流のあるニダルさんのメールメッセージ**

ヨルダン川西岸地区の難民キャンプに、妻と四人の娘と住んでいるニダルさんから

3月15日

メールありがとうございます。

この地域に今朝早くイスラエル軍の侵攻がありましたが、私たちの状況はそう悪くはありません。軍隊が私たちの住む難民キャンプを襲撃してきたのは、ラマダン中にとる夜明け前の食事「ソフル」が終わって多くの市民が寝静まった直後でした。

兵士たちは侵入した家々を通り抜けて隣接する次の家に侵入するため、建物の正面ファサードを破壊された家もありました。幸いなことに、我が家には正面玄関から入ってきたので、何も爆破されませんでした。彼らは狂ったように家の中を探索し、女の子たちを恐怖に陥れ、私たち家族を一部屋に閉じ込めました。彼らはこの家を検査の拠点にするつもりだったようですが、突然家を出て、誰も逮捕せず、怪我もさせずに難民キャンプから撤退しました。

私たちのことを心にとめていただき、ありがとう。

私たちは、難民キャンプの外に、子どもたちのための新しいシェルターを造ることを真剣に考えています。難民キャンプはパレスチナ問題の変わらぬ象徴とみられているため標的とされ今や軍の監視下にあるのです。

一刻も早くそれを実現するために、私は寛大な友人たちの助けを求めているのです。

4月5日

イスラエル占領軍は日夜私たちの難民キャンプを攻撃していましたが、さらに恐ろしい一夜が新たに加えられました。巨大なD9 軍用ブルドーザーを使って難民キャンプの通りの大部分を残酷に破壊したのです。

ブルドーザーは、何十台もの軍用車両に乗った軍隊に守られながらやってきて、狭いキャンプの通りの、壁、家の入り口、水や電気などのインフラなど、行く手にあるものすべてを破壊し、水と電気は完全に遮断されてしまいました。

兵士たちは多くの家屋を襲撃し、住民を襲って殴打し、手あたり次第探索したので大勢の負傷者が発生しましたが、けが人が病院に搬送されたのは攻撃部隊が撤退した後でした。難民キャンプ市民への攻撃は午前1時半に始まり、午前6時まで続き、その間、銃声、爆発音、ドローンの飛行音が止むことはありませんでした。

注目すべきは、パレスチナ人キャンプが軍の軍事標的の中心に置かれているのは、難民がその国家的象徴であることと、1948年に追放された土地への帰還権を堅持しているためだということです。

あなたの優しさをご理解に感謝します。もちろん、先にお送りした私のメッセージをシェアしていただいて結構です。また、次のような糾弾の言葉を含めてもいいです。

「あなたには想像できますか？家族の大半が女性である家庭の長であるのに、このような攻撃が起こって、子どもたちが安全を求めて部屋から部屋へと逃げ回っている。それを見ていながら、恐怖におののく彼らの前でなすすべもなく立ち尽くし、子どもたちにこうしなさいとか、あそこに隠れなさい！ということもできないのです。

本当に、死ぬほど苦しく、押しつぶされそうです。もし私がこの年齢でなかったら、正気を失うか、胸はだけて軍用車両に立ち向かっていたでしょう。」